<様式2>

京丹後市教育振興計画
施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
文化財保護課	吉田　誠

重点目標	6　歴史文化を活用し、郷土への愛着と誇りを育みます
基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。

1．施策の方向性　PLAN

1．豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	①京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育の導入にあわせ、「丹後学」を積極的に展開します。特に、ジオパークに認定された地質遺産を活用したフィールド学習を、小学生を対象に実施します。 ②子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③文化財セミナーや京丹後史博士育成講座等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図ります。
2．文化財の保護と活用	①市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新等を通して文化財の保全を図ります。 ②京丹後市史編さん事業での調査成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③京丹後市デジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡を整備し、活用することで郷土への誇りと愛着を培い、併せて古代丹後の輝かしい資産を観光資源としても活用します。
3．資料館施設の整備充実	①市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ②児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③郷土の歴史や文化財の調査を進め、貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～平成36年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野銚子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元の立場からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定

2．主な取組と構成事務事業一覧　PLAN　DO　※各事業の評価・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1．豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓　事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	H27決算額	H28決算額	H29予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育の導入にあわせ、「丹後学」を積極的に展開します。特に、ジオパークに認定された地質遺産を活用したフィールド学習を、小学生を対象に実施します。					
② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。					
③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図ります。					
1 文化財保護啓発事業	文化財保護課				
市内に数多く残されている文化財や調査成果などを市民などに公開することで郷土の歴史や文化財について学ぶことのできる機会を提供し、その認識を高める。		2,253	1,076	906	現状維持

2. 文化財の保護と活用

主な取り組み

① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新等を通して文化財の保全を図ります。
② 京丹後市史編さん事業での調査成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。
③ 京丹後市デジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。
④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡を整備し、活用することで郷土への誇りと愛着を培い、併せて古代丹後の輝かしい資産を観光資源としても活用します。

事務事業名称・事業内容(実績)	担当課	H27決算額	H28決算額	H29予算額	評価を踏まえた今後の方向性
2 市指定文化財等補助金 文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。	文化財保護課	2,500	2,500	2,500	現状維持
3 史跡等維持管理事業 指定文化財やそれに関連する施設の草刈りや補修等の維持管理を行うことにより、文化財の適切な管理と活用を図る。	文化財保護課	2,307	3,319	1,571	現状維持
4 市史編さん事業【明許繰越】 京丹後市史を刊行し、京丹後市の歴史や自然環境の特徴を多くの市民に知らせる。	文化財保護課	3,334	2,773	-	—
5 文化財整理事業 今後、網野郷土資料館の移転に伴い、市が保有する膨大な資料を調査し、台帳化やデジタル化を図る。	文化財保護課	265	176	234	現状維持
6 遺跡整備事業 丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。	文化財保護課	14,595	17,854	19,929	拡大
7 遺跡発掘調査等事業 発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り文化財の保護・活用につなげる。	文化財保護課	2,101	2,170	4,426	拡大

決算額(単位:千円)　事務の改善

3. 資料館施設の整備充実

主な取り組み

① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。
② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。
③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め、貴重な資料を保管し後世に伝えます。
④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。

事務事業名称・事業内容(実績)	担当課	H27決算額	H28決算額	H29予算額	評価を踏まえた今後の方向性
8 郷土資料館管理運営事業 民俗資料の調査保存、公開施設である資料館の維持管理を行い、郷土の文化遺産への住民の関心を高め、歴史を学ぶとともに、今後の民俗資料館等について検討を行う。	文化財保護課	1,858	1,769	1,771	統合(整理)
9 郷土資料館管理運営事業(明許繰越) 旧郷小学校を民俗資料の展示拠点とするための基本計画書を作成する。	文化財保護課	-	2,997	-	終了・廃止
10 古代の里資料館管理運営事業 古代の里資料館の維持管理を行うことで、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高め、教育、文化にふれあい、歴史を学ぶことに資する。	文化財保護課	9,821	10,567	10,454	現状維持
11 指定管理施設運営事業 琴引浜鳴き砂文化館の適正な管理運営を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。	文化財保護課	7,785	8,345	8,346	現状維持

上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業

決算額(単位:千円)　事務の改善

事務事業名称・事業内容(実績)	担当課	H27決算額	H28決算額	H29予算額	評価を踏まえた今後の方向性
12 文化財保護審議会委員設置事業 文化財の指定解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。	文化財保護課	249	263	497	現状維持
13 文化財保護一般経費 文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。	文化財保護課	528	651	552	現状維持
計		47,596	54,460	51,186	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。								
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値(現状)	年度	目標値	年度
	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468 (5事業、17講座)	H25	593	H28	1,700	H36
	資料館、文化館入館者数	人	13,808 (3施設)	H25	14,227	H28	15,000	H36
	史跡整備	遺跡	6	H25	7	H28	8	H36

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか] CHECK ACT

進捗状況区分	評価	28年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる ○ 予定どおり進んでいる ▲ 少し遅れている × 大幅に遅れている	○	《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》 文化財セミナー5回 250人、博士講座10回 183人、丹後震災記念展 100人、網野銚子山古墳現地説明会 60人、当項目の実数値は、文化財保護課として文化財セミナー博士講座の実施数の参加者等を数値目標として掲げている。 社会教育関係、高齢者大学の講師として歴史講座を文化財保護課職員が対応したものもあるが、その内容は、含めていない。(参考)大宮地域高齢者大学歴史講座36人、丹後地域高齢者大学歴史講座87人、地域公民館歴史散策講座104人 参加者が減少・高齢化する中、市ケーブルテレビで放映する等広く情報提供が出来た。また、講座案内役に高校生チームを起用する等多彩な方法で啓発事業を展開した。 《資料館、文化館入館者数》 ①網野郷土資料館 713人 小学校3年の社会科見学は、12小学校合計295人が訪れた。しかし、全体的には27年度よりは入館者が減少した。 ②丹後古代の里資料館 3,735人 交通アクセスの改善の影響により入館者は、昨年度より増加した。昨年度も一昨年度より入館者は増加しており主要な要因は道路関係に起因すると考えられる。 ③琴引浜鳴き砂文化館 9, 779人 昨年度、交通アクセスの改善と旅行会社のコースに設定された影響で入館者が増加したが、丹後半島一周道路の通行止め等の影響等で28年度は減少した。 リピーターを含め市内外からの入館者を増加させるため引き続きPR強化を図る。 《史跡整備》 文化財マスタープランにより市内主要遺跡等の現状、整備等について検討し整備方針を定めた。整備済の史跡を下記の6史跡とし、今後、早期に整備すべき史跡として、網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓、函石浜遺跡、湧田山古墳を定めた。 整備済の史跡 ①郷村断層、②湯舟坂2号墳、③高山12号墳 ④復元岡1号墳、⑤離湖古墳、⑥浜詰遺跡、の6史跡 現在、網野銚子山古墳の整備実施中、32年度完成予定。

5. 今後の施策展開の考え方(平成29～31年度までの3か年の主な取組) ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な歴史、文化財展示を開催し学習する機会の充実を図る。
	2	史跡整備事業の中で網野銚子山古墳の整備は、工事の実施設計、墳丘工事、園路工事、進入道路、駐車場等の整備を実施して地元市民、観光客に日本海側最大の丹後の王の古墳を見学してもらい活用する。
	3	網野郷土資料館の老朽化に伴い旧郷小学校へ民俗資料の移転統合を進め、資料館施設の整備充実を図る。

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	02文化財保護啓発事業
細事業名	01 文化財保護啓発事業		決算書	P.360
総合計画	計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	（旧計画項目）	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	（参考）当初予算額
1,076千円	1,284千円	208千円	83.8％	906千円

目的

市内に数多く残されている文化財や調査成果などを市民などに公開することで郷土の歴史や文化財について学ぶことのできる機会を提供し、その認識を高める。

主要な事務・事業の概要

市民及び来訪者のために「京丹後市史」や文化財の調査成果を周知する講座（文化財セミナー・京丹後史博士育成講座）、丹後震災90年に関する企画展示等を開催した。また平遺跡出土遺物の受け取りを行ったほか、丹後・東海地方の文化交流調査事業は、前回報告書作成後に残された課題の解決に向け調査事業を継続して行った。

〇文化財セミナー　講師（6人）謝金・費用弁償、報償物品　223千円
参加者　第1回（7月19日）50人、第2回（9月4日）50人、
第3回（9月5日）50人、第4回（10月19日）40人、第5回（2月25日）60人
〇網野郷土資料館まつり　60人　「織りの実演」謝礼（2人）　12千円
〇丹後古代の里資料館企画展示　ポスター・チラシ作成、事務経費等　224千円
春季企画展示「丹後国を描いた絵図」（4月23日～6月19日）555人
夏季企画展示「絵図にみる京丹後市の景観」（6月25日～10月2日）1,272人
秋季特別展示「縁城寺の文化財」（10月8日～11月13日）711人
〇丹後震災90年関連事業　153千円
丹後古代の里資料館冬季企画展示「丹後震災90年」（2月4日～4月16日）625人
第45回丹後震災記念展（峰山地域公民館、3月4日～7日）100人
歩いて辿る丹後震災の記憶（3月19日、京都府立峰山高等学校と共催）　15人
〇平遺跡出土遺物受け取り
美術運送による運搬費、職員旅費　340千円
〇丹後・東海地方の文化交流調査事業
調査事業謝金（調査者4人、謝礼・費用弁償）、事務経費　124千円

主な財源

諸収入　京丹後史博士育成講座資料代　17千円

成果・課題

〇文化財セミナー等の講座では、『京丹後市史』の内容を市民により深く理解いただく機会を提供できた。また、市ケーブルテレビの特集番組の放映により市民に広く情報提供することができた。
〇丹後震災90年関連事業では、資料展示とセミナーのほか、京都府立峰山高等学校との共催により、高校生のガイドチームの案内による事業を開催し、多彩な方法で啓発事業が展開できた。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	03指定文化財等管理事業
細事業名	01 市指定文化財等補助金		決算書	P.360
総合計画	計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	（旧計画項目）	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	（参考）当初予算額
2,500千円	2,500千円	0千円	100.0％	2,500千円

目的

文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。

主要な事務・事業の概要

〇京丹後市指定文化財等補助金　20件　2,500千円
（内訳）
・国、府指定・登録文化財補助金該当分　3件　492千円

・京都府社寺等文化資料保全補助金該当分　17件　2,008千円
（京丹後市指定文化財及び未指定文化財のうち補助要件を満たすもの）

事業対象は寺院の修理、神社本殿覆屋の修理、郷土芸能の道具の修理・新調、絵画の修理などで、事業費の総額は、53,554千円であった。

※参考
平成27年度事業実績
補助件数　16件
補助金額　2,500千円
事業総額　29,476千円

主な財源

成果・課題

市内に数多く残る文化財の保全のために、修理等への補助金を交付することにより、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	03指定文化財等管理事業
細事業名	02 史跡等維持管理事業		決算書	P.360
総合計画 計画項目	28　芸術・文化を活かしたまちづくりの推進			
総合計画 （旧計画項目）	31　芸術・文化を活かしたまちづくりの推進			

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	（参考）当初予算額
3,319千円	3,449千円	130千円	96.2 %	1,571千円

目的

指定文化財やそれに関連する施設の草刈りや補修等の維持管理を行うことにより、文化財の適切な管理と活用を図る。

主要な事務・事業の概要

○コウノトリモニタリング事業報償費　63千円
天然記念物のコウノトリが市内で営巣・産卵したため、監視員を置き観察・記録するとともに巣周辺の立ち入り制限などの保護活動を行った。

○史跡等草刈委託・文化財施設環境美化委託料　1,114千円
史跡等用地の草刈、清掃により文化財見学の利用供与や、維持管理を行った。
網野銚子山古墳、神明山古墳、函石浜遺跡、赤坂今井墳墓、産土山古墳、竹野神社など16件

○指定文化財関連施設管理経費　42千円
郷村断層等の指定文化財施設の維持経費　11千円
火災保険料（旧口大野村役場、郷村断層施設、浜詰遺跡施設）　31千円

○京丹後市指定文化財看板等設置事業（土地借上、工事、修繕費）　412千円
市指定文化財等の看板2基（扇谷遺跡、新宮窯跡）を設置、また強風により被災した看板１基の撤去（大谷古墳）を行った他、従前から設置している看板（比沼麻奈為神社案内、月の輪田・清水戸案内、鳴き砂案内）について土地借上料を支出した。

○京丹後市指定文化財施設修繕事業（修繕費）　1,688千円
市指定文化財である浜詰遺跡復元住居及び付帯施設の老朽化による修繕と峰山陣屋跡エノキの災害に伴う倒木処理を行った。

主な財源

成果・課題

○史跡や周辺施設等の環境整備を行うことにより、文化財の保全が図られ、文化財見学等の利用促進につながった。
○指定文化財の保全を図ったが、案内看板等が未整備のものもあるため、整備を行い、来訪者の利便性向上と文化財の保護啓発を図る必要がある。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	07市史編さん事業
細事業名	01 市史編さん事業（繰越）		決算書	P.362
総合計画 計画項目	28　芸術・文化を活かしたまちづくりの推進			
総合計画 （旧計画項目）	31　芸術・文化を活かしたまちづくりの推進			

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	（参考）当初予算額
2,773千円	3,240千円	467千円	85.5 %	3,240千円

目的

京丹後市史を刊行し、京丹後市の歴史や自然環境の特徴を多くの市民に知らせる。

主要な事務・事業の概要

前年度繰越事業により、京丹後市史資料編『京丹後市のまちなみ・建築』を発刊した。これにより、当初計画の本文編2冊、資料編12冊、合計14冊の市史発刊が完了した。

○京丹後市史資料編『京丹後市のまちなみ・建築』印刷　2,773千円
12冊目の資料編として作成。600部印刷。

主な財源

成果・課題

○京丹後市史資料編『京丹後市のまちなみ・建築』を発刊したことにより、当初予定していた全ての市史発刊が終了し事業を完了した。
○これまでの市史編さん事業により明らかになったことを市民へどのように普及啓発するか、文化財保護行政の今後の指針にどう役立てていくかが課題である。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	04文化財整理事業
細事業名	01 文化財整理事業		決算書	P.360
総合計画	計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	（旧計画項目）	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	（参考）当初予算額
176千円	234千円	58千円	75.2％	234千円

目的

今後、網野郷土資料館の移転に伴い、市が保有する膨大な資料を調査し、台帳化やデジタル化を図る。

主要な事務・事業の概要

網野郷土資料館の老朽化に伴い、平成29年度に旧郷小学校へ移転する準備のため、収蔵民俗資料等の目録整備と台帳化を行った。

収蔵資料整理経費

○臨時職員賃金（1人）	92千円
○需用費（事務用品等）	83千円
○役務費（ゴミ処理手数料）	1千円

※平成28年度末時点で3,900点を目録化

主な財源

成果・課題

網野郷土資料館収蔵民俗資料等の目録整備と台帳化を進めることができ、平成29年度に旧郷小学校へ移転する準備を行うことができた。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	05遺跡整備事業
細事業名	01 遺跡整備事業		決算書	P.360
総合計画	計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	（旧計画項目）	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	（参考）当初予算額
17,854千円	18,134千円	280千円	98.4％	19,929千円

目的

丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。

主要な事務・事業の概要

国史跡網野銚子山古墳について、平成23年に策定された「網野銚子山古墳整備基本計画」に基づき史跡の保存を図るべく、史跡整備検討委員会を設置し2回開催した。その指導を受け史跡指定地内の一部を発掘調査し、併せて小銚子古墳の精密測量を実施した。また史跡指定地内と周辺の土地確定などの対応を行った。今年度は駐車場用地（5筆）を取得した。

○網野銚子山古墳整備事業費

・報酬	史跡整備に関する専門委員の会議報酬	64千円
・共済費	発掘調査補助員に関する労災保険料	3千円
・賃金	発掘調査補助員賃金	989千円
・旅費	整備に関する専門委員及び関係者協議旅費	151千円
・需用費	調査関連の消耗品、発電機ガソリン代ほか	115千円
	発掘調査記録写真現像費	11千円
・役務費	簡易トイレし尿汲取料	2千円
・委託料	草刈委託料	713千円
	小銚子古墳地形詳細測量委託料	5,187千円
	発掘調査作業員人材派遣委託料	2,385千円
・使用料及び賃借料	関係者協議に関する有料道路通行料	23千円
	発掘調査に係る重機、簡易トイレ等借上料	555千円
・公有財産購入費	駐車場用地取得に係る土地購入費 2,327㎡	7,656千円

主な財源

国補	国宝重要文化財保存整備費補助金（1/2）	4,600千円
府負	遺跡整備事業債（合併特例債）	7,200千円

成果・課題

○史跡の環境整備を行ったことで後世の削平（墳丘部の人工的な土地改変、掘削）、崩落等で影響を受けている墳丘裾部を復元設計するためのデータを蓄積することができた。
○整備を行うにあたり、古墳全体の詳細な現況の把握が課題であったが、今回の測量で詳細な現況地形データを得ることができた。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	06遺跡発掘調査等事業
細事業名	01 遺跡発掘調査等事業		決算書	P.362
総合計画	計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	(旧計画項目)	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	(参考) 当初予算額
2,170千円	2,222千円	52千円	97.6 %	4,426千円

目的

発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り文化財の保護・活用につなげる。

主要な事務・事業の概要

民間開発に伴う緊急調査及び府営ほ場整備事業計画に伴い、左坂南古墳群、大宮売神社遺跡、女布遺跡及び井谷遺跡の試掘調査を実施するとともに、年度末にそれぞれ調査報告書を刊行した。

併せて、大宮地域の一部で詳細遺跡分布調査を行い、遺跡台帳の整理を行った。

○左坂南古墳群試掘調査 649千円
- 現地調査期間 平成28年6月1日～6月30日
- 調査成果 地区内で新規古墳1基を含む古墳2基及び土器の散布を確認。

(経費内訳) 賃金 補助員賃金150千円 委託料 作業員派遣委託料381千円
需用費 報告書印刷費等95千円 使用料及び賃借料 トイレ借上22千円他

○大宮売神社遺跡試掘調査 119千円
- 現地調査期間 平成28年9月26日 (経費内訳) 使用料及び賃借料
- 調査成果 顕著な遺構はみられなかった。 重機等借上119千円

○女布遺跡試掘調査 385千円
- 現地調査期間 平成28年10月26日～11月2日
- 調査成果 2か所で建物跡の可能性のある柱穴群等を確認。

(経費内訳) 需用費 報告書印刷費等94千円 委託料 派遣委託等105千円
使用料及び賃借料 重機等借上184千円 役務費 し尿汲取料2千円

○井谷遺跡試掘調査 92千円
- 現地調査期間 平成28年11月21日 (経費内訳) 使用料及び賃借料
- 調査成果 顕著な遺構は見られなかった。 重機等借上92千円

○遺跡分布調査等 925千円
- 調査期間 平成28年12月12日～平成29年3月31日 (経費内訳)
- 調査成果 4か所の遺跡を新規確認。加えて開発予定の古墳1か所の詳細測量実施。 賃金 補助員賃金 704千円 使用料及賃借料 123千円他

主な財源

国補	国宝重要文化財等保存整備費補助金 (1/2)	1,000千円
府補	埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金 (1/4)	500千円

成果・課題

○民間の宅地開発に伴う緊急立会いを行い、開発などに迅速な対応を行った。
○開発が計画されている地区において試掘調査を実施したことにより、開発時の埋蔵文化財の調整を行うための基礎資料を整理することができた。
○将来の開発に備えて円滑な調整と文化財の保護・活用を図るため、市内遺跡の分布調査・範囲確認調査を随時進めていく必要がある。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	04資料館費	01郷土資料館管理運営事業
細事業名	01 郷土資料館管理運営事業		決算書	P.352
総合計画	計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	(旧計画項目)	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	(参考) 当初予算額
1,769千円	1,940千円	171千円	91.1 %	1,771千円

目的

民俗資料の調査保存、公開施設である資料館の維持管理を行い、郷土の文化遺産への住民の関心を高め、歴史を学ぶとともに、今後の民俗資料館等について検討を行う。

主要な事務・事業の概要

市民及び市外からの来訪者のために、豊富に残る市所蔵や寄贈を受けた民俗資料を適切に保管・公開し、文化財保護の普及啓発を図る郷土資料館の維持管理運営を行った。
平成28年度は各季の企画展 (昔のくらし展など) を実施し普及啓発を行った。

平成28年度入館者数 713人 (平成27年度入館者数 1,035人)

○人件費 (臨時職員2人分の賃金と労災保険料)	1,065千円
○維持管理経費	704千円
・消耗品費	48千円
・燃料費	15千円
・光熱水費	151千円
・修繕料	168千円
・電話料	72千円
・保険料	54千円
・機械警備委託料 (長期継続契約)	149千円
・消防設備点検委託料	11千円
・コピー機借上料	10千円
・テレビ受信料	15千円
・原材料費 (体験用キットなど)	11千円

主な財源

使用料	郷土資料館入館料	34千円

成果・課題

○施設を適正に維持管理し、市内でかつて使用されていた生活道具 (民俗資料) を来館者へ公開することで、郷土に残る文化遺産に対する住民の関心を高めることができた。
○市内小学生の社会科見学で、実物に触れさせるなど様々な工夫を行うことで学習効果の向上につながった。
○昭和21年建築の旧木津小学校校舎を利用した建物は、木造であり施設の老朽化が進んでいるため、平成29年度に旧郷小学校へ移転予定である。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	04資料館費	01郷土資料館管理運営事業
細事業名	01 郷土資料館管理運営事業（繰越）		決算書	P.354
総合計画	計画項目	28　芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	（旧計画項目）	31　芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	（参考）当初予算額
2,997千円	2,997千円	0千円	100.0 %	2,997千円

目的

旧郷小学校を民俗資料の展示拠点とするための基本計画書を作成した。

主要な事務・事業の概要

前年度繰り越し事業により、旧郷小学校を民俗資料及び美術資料を含めた展示施設の拠点として活用する基本構想計画をまとめ報告書を作成した。

○基本計画作成委託料　2,997千円

主な財源

成果・課題

○旧郷小学校を民俗資料及び美術資料の展示施設の拠点として活用する基本計画を報告書にまとめることができた。
○作成した基本計画にかかる改修について、事業費、管理運営等、今後、引き続き検討していく必要がある。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	04資料館費	02古代の里資料館管理運営事業
細事業名	01 古代の里資料館管理運営事業		決算書	P.354
総合計画	計画項目	28　芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	（旧計画項目）	31　芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	（参考）当初予算額
10,567千円	10,990千円	423千円	96.1 %	10,454千円

目的

古代の里資料館の維持管理を行うことで、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高め、教育、文化にふれあい、歴史を学ぶことに資する。

主要な事務・事業の概要

市所蔵考古資料・美術工芸品を適切に保管・公開し、文化財の保護、普及啓発を図るため夏休み子ども陶芸教室、丹後震災90年、縁城寺の文化財等の特別展示を開催するとともに、丹後古代の里資料館の維持管理運営を行った。

平成28年度入館者数　3,735人（平成27年度入館者数　3,616人）

○人件費
- ・資料館長報酬、共済費、費用弁償　2,418千円
  資料館長報酬　166,500円×12か月＝1,998千円
- ・臨時職員賃金、共済費　3,203千円
  臨時職員3人分の賃金と労災保険料、雇用保険料、社会保険料事業主負担分

○維持管理経費
- ・光熱水費　1,297千円
- ・消耗品等　256千円
- ・通信運搬費等役務費　206千円
- ・機械警備委託料　127千円
- ・浄化槽維持管理委託料　307千円
- ・土地借上料（2,915㎡）　305千円
- ・修繕料（雨どい、浄化槽修繕等）　364千円
- ・その他管理経費（清掃用具借上・コピー機リース等）　802千円

○体験用経費
- ・原材料費（勾玉作り材料及び陶芸体験用材料）　70千円
- ・報償費（窯焼謝礼）　35千円

○工事請負費　1,177千円
- ・門扉改修工事、2階トイレ改修工事

主な財源

使用料	古代の里資料館入館料	615千円
諸収入	古代の里資料館物品販売代金	26千円
諸収入	古代の里資料館陶芸教室実習料	83千円
諸収入	古代の里資料館書籍販売代金	211千円

成果・課題

○京丹後市内の考古歴史資料、特別展企画展を開催し文化財の普及啓発を図った。
○小中学校の地域学習の拠点施設として活用することで、市内小中学生に対して市内の歴史に関する知識を深め、関心を高めることができた。今後もより一層、小中学校の地域学習への活用を図っていく必要がある。
○開館から20年以上経過しているため、設備の更新が今後の検討課題である。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	04資料館費	03資料館等指定管理運営事業
細事業名	01 指定管理施設運営事業		決算書	P.354
総合計画	計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	(旧計画項目)	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	(参考)当初予算額
8,345千円	8,346千円	1千円	99.9 %	8,346千円

目的

琴引浜鳴き砂文化館の適正な管理運営を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。

主要な事務・事業の概要

鳴き砂や環境保全の学習施設として、指定管理制度により、掛津区が管理運営を行っている。教育施設の性格を持つとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する展示を行うなど観光施設としても重要な拠点となっている。

平成28年度入館者数　9,779人（平成27年度入館者数　12,361人）

○委託料　7,100千円
指定管理者の管理運営に伴う管理委託料

○使用料及び賃借料　1,245千円
建物の所有者である財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料及び駐車場用地賃借料

主な財源

成果・課題

○各種の展示事業や、琴引浜のガイドウォークにも取り組み、積極的な管理運営に努めた。各種視察受け入れやジオパーク関連事業・ガイド事業への支援・協力などを行い、京丹後市の代表的な施設としての役割を果たした。
○リピーターを含め市内外の利用者獲得へ向け、観光業者との連携や展示内容のリニューアル検討などの取組を進めるとともに、市の施設として適正な運営に努める必要がある。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	01文化財保護審議会委員設置事業
細事業名	01 文化財保護審議会委員設置事業		決算書	P.358
総合計画	計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		
	(旧計画項目)	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	(参考)当初予算額
263千円	297千円	34千円	88.5 %	497千円

目的

文化財の指定解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。

主要な事務・事業の概要

○文化財保護審議会の開催経費　172千円

市文化財の指定・管理等に関する事項や文化財関係事業、文化財保護普及啓発等を検討するため審議会を開催した。

・報酬　半日×4回（4千円×37人）　148千円
・費用弁償　24千円

○両丹文化財保護連絡協議会への参加経費　56千円

平成28年度は宮津市歴史の館を会場に開催された。7つの市町の文化財保護審議会委員や関係者を含め約60人が参加し交流を深めた。各地域の近代建築の保存と活用方法を中心に研修が行われた。

・報酬　7千円×7人　49千円
・費用弁償　7千円

○文化財保護審議会委員視察研修費　35千円

京丹後市の文化財行政に活かすため、城陽市の史跡芝ケ原古墳、正道官衙遺跡、発掘調査中の久津川車塚古墳を見学し、京都国立博物館では修理所と「丹後の仏教美術展」の視察を行った。

平成28年8月26日
（城陽市・京都国立博物館・公用車使用）
・旅費（7人）　20千円
・その他経費　15千円
（燃料費、バス運転委託料、有料道路通行料等）

主な財源

成果・課題

○両丹文化財保護連絡協議会へ参加し、各市町間において意見交流を行うことにより研鑽を積むことができた。
○委員視察研修では史跡整備先進地の見学を行うとともに、博物館での文化財修理や展示、保存にかかる視察を行い、今後の文化財行政への活用を検討することができた。
○新たな文化財指定について審議を行い、登録に向けた現地調査も行った。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課

予算科目	10教育費	05社会教育費	06文化財保護費	50文化財保護一般経費
細事業名	01 文化財保護一般経費		決算書	P.362
総合計画 計画項目	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進			
総合計画 (旧計画項目)	31 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進			

決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②−①)	執行率	(参考) 当初予算額
651千円	687千円	36千円	94.7 %	552千円

目的

文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。

主要な事務・事業の概要

○文化財関係加盟団体経費　70千円

京丹後市が加盟する文化財関係団体負担金等

- 全国史跡整備市町村協議会　40千円
- 全史協近畿地区協議会　10千円
- 全国鳴き砂ネットワーク　20千円

○文化財収蔵施設維持管理費　435千円

資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費
（成路分校、十楽倉庫、旧三重保育所、丹後震災記念館）

- 光熱水費　34千円
- 電話料・火災保険料　131千円
- 機械警備委託料・草刈委託料　77千円
- 修繕料（軽トラ・火災通報機）　193千円

○一般事務経費　146千円

- 消耗品費　25千円
- 燃料費　4千円
- 旅費（鳴き砂ネットワーク事務局会議参加ほか）　117千円

主な財源

成果・課題

文化財保護事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保護と活用を図ることができた。

事業所管課	教育委員会事務局／文化財保護課